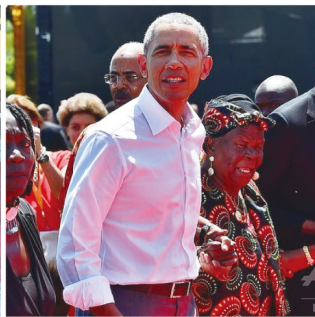


平成30年度

事業報告書

日本リザルツ平成31年2月8日作成



07 J U L Y

2018年07月03日

鈴木りえこ氏とのミーティング

本日 ミレニアム・プロミス・ジャパン理事長の鈴木りえこ氏がオフィスにお出でになり、多目的船プロジェクトを手掛ける池永優美子氏もおいでになって職員と一緒に昼食を共にされました。ウガンダ、マリ等アフリカ諸国訪問時のお話、ミレニアム・プロジェクトのコロンビア大学教授ジェフリー・サックス氏が講演に世界中を忙しく飛び回られていることなどを伺いました。



ケニア結核プロジェクト、今後の展開

日本リザルツはケニアのスラム街、カンゲミ地区で、結核抑止プロジェクトを実施しています。事業は2016年7月から始まり、現在、2期目を運営しています。最終年度のプロジェクトをどのようにすればよいか、今週も外務省をはじめ、関係企業、専門家の方々のお知恵をお借りしながら、プロジェクトの立案を進めています。最終年度の事業終了以降は、医療ボランティアのみなさんとパートナーである保健省の方々が、結核で亡くなる患者さんをゼロにするための活動を自分たちで実施していく必要があります。どうしたら、ケニアの皆さんが自立して活動ができる仕組みと気持ちづくりができるのか、現在、頭を悩ませています。相手のニーズに沿ったプロジェクトを立案し、実施ができるよう、頑張りたいと思います。

2018年07月04日

ケニアでのパフシリアル(ポン菓子)の導入について

7月2日(月)に、日本リザルツにおいて、公益社団法人国際農林業協働協会(JAICAF)と公益財団法人味の素ファンデーションの方々とアフリカの栄養について意見交換を行いました。JAICAFさんでは、農林水産省の助成を受けて、アフリカの実情に即した地産地消の活動として、ケニア国を対象にパフシリアル(ポン菓子)の技術(ポン菓子機)を農村に導入し、普及の可能性を調査されています。地域農産物を利用したポン菓子の生産と販売によって新たな収入機会が生まれるだけでなく、従来未利用だった地域の穀類、豆類などがパフ

加工により利用可能になること、ポン菓子が栄養改善にも資することが明らかになったとのことです。更なる普及と事業化により、アフリカにおける今後の栄養改善の具体的な取り組みになるものと感じました。

2018年07月06日

ストップ結核パートナーシップ事務局長来日

ストップ結核パートナーシップのルチカ・デイトウ事務局長と、ジャクリーン・フー民間セクター及び戦略イニシアティブチームリーダーが来日し、7月5日(木)と6日(金)の2日間、ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟の武見敬三会長、高階恵美子副会長、厚生労働省、外務省、栄研化学株式会社、三菱UFJリサーチ&コンサルティングを訪問されるのに同行しました。

デイトウ事務局長もフーチームリーダーもとても気さくで優しく、一方では結核を終結させるということに対して強い熱意を持った方でした。

デイトウ事務局長は、全世界で見た場合に、結核で亡くなる人の数がエイズとマラリアによる死者の数を合わせたよりも多いにも関わらず、結核に対する意識が低いという現状があり、他の声にかき消されてしまわないように声を上げ続けなくてはならないこと、今までのようにいつも同じ保健部門の人だけで話し合うのではなく、もっと様々な分野の人と結核について議論してゆく必要があるということを強く訴えました。

フーチームリーダーは、新薬や新しい機器を開発してもそれを市場に投入して普及させるまでに様々な手続きのために長期間を要してしまうことが民間部門の研究開発に対する意欲を低下させていると訴え、イノベーターの新製品や新技術をいち早く市場に投入するための、Accelerator for impact (a4i)という仕組みを紹介しました。非常に刺激をいただいた二日間でした。



ケニアの住民ボランティアの活動～結核患者に寄りそって～

ナンシーは日本リザルツの事業地カンゲミ地区のキバガレに住んでいます。事業スタッフではありませんが、キバガレの保健ボランティアを取りまとめる住民ボランティアのリーダーとしてカンゲミ診療所と地域住民を

つなぐという大切な役割を果たしています。

ナンシーは、キバガレ地域での日々の活動について記録をつけて、他の住民ボランティアと一緒にいった活動内容の結果を毎週担当のスタッフに報告をしています。

報告の内容は、患者の家庭訪問の回数、診療所へ搬送した患者の数、結核かどうかスクリーニングをした人数（結核を心配して相談に来る住民や家庭訪問で結核かどうか確認します）、コミュニティの環境衛生を改善する掃除活動の取り組みの回数というものです。センタイゼーションと呼ばれる啓発活動についても報告します。報告の例を挙げると、月曜日にキニユア地域、火曜日にジトカ、水曜日に酋長のキャンプ所、木曜日にカサラニ、金曜日にウペンド地区でそれぞれ健康を話題にした話をして

います。一週間で男性 45 名、女性 65 名 合計 110 名の住民の方々に結核の話を中心に健康についての話をしたこととなります。

酔っ払いから暴言を吐かれたり、患者から食べ物をせがまれたりと活動は簡単ではないようですが、今日もナンシーは住民を結核から守るために奮闘しています。がんばれ住民保健ボランティア!!!



2018 年 07 月 08 日

結核患者の多面的経済負担を乗り越えて

7 月 4 日、『ケニアにおける結核患者達とその家族らが背負い込む経済負担の評価』という調査が発表された会議に出席しました。

その会議では、結核を患うことで生まれる多面的経済負担が、様々な角度と結核に纏わるストーリーを通して分析され、論じられました。

この調査の目的は、結核患者の経済負担の主要な動力とその大きさを記録し、結核治療に伴う経済負担を減らすための政策を導くことでした。

私は、人生の大半を母国である日本で生まれ育ち、国民健康保険などの社会保障に恵まれました。そして、1 つの病気で家計が困窮する状況に陥りませんでした。その境遇から今回の会議を通して、以下の質問を投じます。

「もし、人々の年収の 5 分の 1 以上が結核により失われたらどうしますか。」

この調査では、ケニアの 30 の準郡で 1,353 の結核患者達を対象に、情報収集が行われました。その調査結果から、26,041.49 ケニアシリングが、対象全体の中間の経済負担の数字として打ち出されました。この数字に含まれる経済負担は、診断にかかる費用、病院までの交通費、生産的時間の消失など多岐にわたります。

ケニア保健省の発表では、2018 年 4 月時点で全体の 33.6% のケニア人が 1 日 2 ドル以下で生活をしています。そのような境遇に生きるケニア人が、結核により 26,041.49 ケニアシリングの経済負担を抱える状況とはいか



なるものでしょうか。この調査では、薬剤感受性結核患者が上記の数字に似た経済負担を抱えることが分かりました。一方で、薬剤耐性結核患者は薬剤感受性患者の6倍の経済負担、145,109.53 ケニアシリングの経済負担を抱えることが分かりました。その負担は、追加の栄養補給や生産的時間の消失により生まれるものです。

冒頭で述べた質問を当団体がカンゲミ地区で行う結核予防事業に照らすと、どのような反応が生まれるでしょうか。本事業に従事する自分は、カンゲミヘルスセンターに訪れる結核患者のストーリーに耳を傾け続けたいです。そして、カンゲミ地区が抱える特有の課題と人々の持つ可能性を模索し、ケニア国家の社会保障体制と結核患者、コミュニティの人々、地元の保健省などがより繋がっていきけるような活動をしていきたいです。

参考資料

・Kenya's First National TB Patient Cost Survey: An Assessment of the Economic Burden Incurred by TB Patients and Their Households in Kenya. the National Tuberculosis, Leprosy and Lung Disease Programme of the Ministry of Health of Kenya, June 2018

2018年07月09日

霞が関の魔法使いどーらのオススメ本

今日は霞が関の魔法使いこと、どーら(白須)オススメの一冊を紹介します。

「読む力」と「地頭力」がいっしょに身につく 東大読書

偏差値35から東大に合格した現役東大生の西岡孝誠さんが書かれた本です。読む力と書かれています。考える力をどうやって身に付けるかがわかる1冊です。



最近話題になっており、インターネットでも特集されています。どーらから「インプットする時間を作りなさい」とアドバイスを受け、週末に書籍の読み込みをしていたときに会った本です。書いてあることが、「正にどーらがいつも言っていることそのものだ」と感銘を受け、どーらにこの本を紹介しようとしたところ…

どーらもこの本を「面白い！」と週末で読み込んでいたことが今日判明しました。なんという奇遇でしょう！高校生の時点で地頭力に気づいた著者の西岡さんを羨ましいと思いました…

日本リザルツで修行をはじめ、もうすぐ2年。ロダンのように考えられる人になれるよう、地頭力を鍛えて日々精進します。

スナノミ靴寄託式 佐々木さやか議員

本日公明党の佐々木さやか参議院議員を始め、西村恭仁子神奈川県議、福島直子横浜市議、中島光徳横浜市議、西岡幸子鎌倉市議、後田博美相模原市議、古谷秘書、公明党神奈川県本部職員の方々がお出でになり、ケニアへ送るための靴の寄託式が行われました。

始めに佐々木議員からのご挨拶があり、浅野理事長がお礼の言葉を述べられ、次に白須代表からの謝辞が述べられました。尚本日は 1,660 足の運動靴を寄託して戴きました。



いつもご支援いただき本当にありがとうございます。

尚、本日は日本二輪自動車推進協会の五十嵐さんにも同席して戴きました。尚、五十嵐さんは靴を発送する際にリザルツのオフィスから成田空港までの陸送をしてくださるそうです。

2018年07月11日

7.26 国際連帯税シンポ 昨日全国国会議員に対して案内文を配布

昨日(10日)、国際連帯税創設を求める議員連盟は、7.26 国際連帯税シンポジウムのご案内を全国国会議員に対し配布しました。「津島雄二初代会長や広中和歌子同会長代行など議連 OB・OG も参加していただきますので、現役国会議員もなるべく多く参加していただきたいですね」(石橋事務局長の談話)。以下、案内文です。

衆参国会議員各位:

7.26「SDGsのための国際貢献と国際連帯税を考えるシンポジウム」～ご案内とご参加のお願い～

国際連帯税創設を求める議員連盟



会 長 衛藤征士郎
 会長代行 藤田 幸久
 会長代理 斉藤 鉄夫
 事務局長 石橋 通宏

日頃のご活躍に心より敬意を表します

早速ですが、「国際連帯税創設を求める議員連盟(以下、連帯税議連)」では、来たる7月26日(木)、グローバル連帯税フォーラムをはじめとする市民団体の皆さんとの共催で、標記のシンポジウムを下記の要領にて開催致します。詳細は、添付のチラシ【省略】をご参照下さい。

皆さまもご存じの通り、今、国際社会では、「持続可能な開発目標＝SDGs」の実現をめざし、様々な取り組みが進められておりますが、その成否のカギを握るのは、必要とされる開発資金の調達であり、この点で我が国にも大きな役割を果たすことが期待されております。先のG20会合では、河野外務大臣が「我が国としても国際連帯税を含む新たな資金調達のメカニズムに取り組んで行く」との決意を発言しており、今後の動向にも注目が集まっています。

この度のシンポジウムには、河野外務大臣にゲストスピーカーとしてご参加いただくとともに、SDGsに取り組んでいる国際機関、国内外のNGO・市民団体、企業、労働組合、有識者、海外の専門家などマルチステークホルダーが一堂に会し、SDGsの推進と国際連帯税の導入に向けた決意を固め合うと同時に、国内での機運を高めていきたいと考えています。

つきましては、SDGsをはじめとする国際協力や地球規模課題にご関心をお持ちの国会議員の皆さまにおかれましては、大変ご多用中の折とは存じますが、ぜひご参加賜りますようお願い申し上げます。なお、シンポジウム終了後、全体での懇親会も行います。多方面の関係者とネットワークを築く貴重な機会ですので、ご参加下さいますようお願いいたします。

記

日 時： 2018年7月26日(木) 13時30分～16時30分

場 所： 衆議院第一議員会館 1階「国際会議室」

(シンポジウム終了後、隣の多目的会議室にて懇親会を行います)

…以下、省略…

★写真は、16年5月開催のG7伊勢志摩サミットに向けて「新しい開発資金＝国際連帯税の導入と国際的な呼びかけを」という要望書を菅官房長官に手交する、国際連帯税創設を求める議員連盟のメンバー

2018年07月12日

スナノミ靴 寄付 (秋野公造参議院議員)

本日 秋野公造参議院議員のお力添えにより長崎じげもんフェスティバル委員会様よりスナノミの靴代として、¥44,199のご寄付を戴きました。秋野議員には4月にも同様にご寄付の為に尽力賜っております。心より感謝申し上げます。



2018年07月13日

2018 RESULTS International Conference (7月12日)

ワシントン DC からの一報です。

リザルツ総会は14日からワシントン DC のグランド・ハイアットホテルで開催されますが、白須代表は昨日、スタッフの小平は本日12日夕方にDC 入りしました。午後4時のDC の気温は28度とユナイテッド航空の案内がありましたが、30度をはるかに超え、真夏の感じでした。世界各国からの旅行客等でごった返す空港に、ACTION スタッフが迎えに来てくれました。車にはフランスの GLOBAL HEALTH ADVOCATES のブルーノさん、ソフィーさんの二人と同席しました。ブルーノさんは昨年訪日しており、代表のことはよくご存じとのことでした。ホテルに着くまでの40分間、互いの業務や翌日の会議の話のほか、フランスのワールドカップ決勝進出の話などをして楽しいひと時を過ごしました。ブルーノさん



は子どもの健康に関する電話会議にフランスのメンバーとして参加しているとのこと、次回の電話会議は楽しくなりそうです。ハイアットに着いたのは夕刻で、日ごろから栄養改善の取り組みで大変お世話になっているナンディニさんをブルーノさんが紹介してくれ、翌日の空き時間を使って栄養に関する意見交換をするための調整もしていただきました。そこへハナさんが表れ握手をして挨拶しました。「(白須)紀子はまだ会議中」とのこと。一息ついたところで会議の終わった代表との打ち合わせ。代表は関係者との夕食会は遠慮して、キャピタル・シティ・レストランで日本側だけで夕食をとりました。私は、店のお勧めであるハンバーガー・ポテトチップスにしましたが、ボリュームが違います。ポテトチップスは持ち帰りました。日本とアメリカの食のスタイルの差を痛感しました。

2018年07月14日

東京都発表:結核集団感染

7月12日に、東京都が結核の集団感染を発表しました。日本語学校の学生や教員54人が感染し、14人が発症したとのこと。先日ストップ結核パートナーシップ事務局長が来日し、日本は他の先進国と比べて結核が多く、いまだに中まん延国であるにもかかわらず、結核は過去の病気とされているということ、9月の国連ハイレベル会合に向けて意識を高めることと同じくらい、その後も「プッシュ」を続けることが重要であると話していたことを思い出しました。

結核を本当に終結させるために頑張らなくてはならないと、改めて思いました。

2018 RESULTS International Conference (7月13日)

13日には、ACTION パートナー会議が開催されました。出席者は、ACTION 事務局(ハナ事務局長以下総勢29名)、各国リザルツ(オーストラリア、カナダ、日本、英国及び米国)、GHA(Global Health Advocates: フランス、インド)、CITAM+、KANKO、HDT、プリンセス・オブ・アフリカ財団、WACI Health など、日頃から ACTION 活

動に従事する諸機関の専門家による会議です。今回は、アフリカ4カ国(マラウイ、セネガル、ザンビア、コートジボアール)の国際保健専門家の参加もあり、総勢 66 名の専門家が参加しました。加えて、午後の短時間、世界各国から選ばれた若手栄養ボランティア 9 名が特別参加し、専門家集団の議論の状況を視察しました。ACTION パートナーの会議は、6 から 7 のチームに分かれ、特定のテーマや参加者によるレクチャーを踏まえて一定時間内で各チームの議論とチームの結論を取りまとめて発表するという形をとります。非常に実践的で緊張するものでした。冒頭に出席者の挨拶がありました。各自、所属先と ACTION パートナーとして活動する意識を一言で述べるというもので、皆さんユニークな自己紹介となりました。因みに筆者は、日頃「栄養 3 銃士」を意識しているので、つい「Musketeer(銃士)として世界の栄養不良と闘います」と口走り、皆さんの笑いを取りました。

第一セッションでは、1) 交付金と旅費などの関係、2) イベントの緊急時での迅速な対応、3) 大規模な国際イベント、4) CSOs とのパートナーシップの 4 テーマが扱われました。筆者の場合、2)~4) は、日頃、多少の経験があるので、リザルツでの経験や苦労話を披露しました。中でも、4) のテーマでは、栄養の電話会議でも積極的な発言のあるカナダ・リザルツのクリスさんが議長となり、他にも栄養を担当する人もいて、さながらミニ栄養会議のような雰囲気でも盛り上がり、時間が経つのも忘れるほどでした。問題意識の共有化が重要といったようなアドボカシー活動の基本原則なども強調され、大いに勉強になりました。なお、副産物として、会議終了後に栄養グループが結成され、クリスさん、マラウイのマジコさん、フランスのブルーノさんが加わり、白須代表を囲んで写真撮影をしました。代表の通訳を務めて頂いている DC 在住の平間さんが撮って下さいました。第 2 セッション以降は、グローバル保健関連の特別テーマで、9 月に迫る国連総会での結核ハイレベル会合での CSO 意向の反映など喫緊の課題についての議論、アフリカの参加者の大きな関心事項でもある世銀の GFF(Global Financing Facility)の課題、ポリオの現状と資金確保、ジェンダー問題などドナー国やアフリカでの重要な地球規模の保健課題が話し合われました。皆さん最後の最後まで熱のこもった議論を続け、充実した一日でした。成果発表では、アフリカ組が拍手の代わりに太鼓をたたくように机をたたいていたのが楽しかったです。言葉が拙くても積極的な参加で話は聞いてくれますが、英語力の強化が必須だと痛感しました。明日からいよいよ総会です。どんな展開、話が待ち受けるのか大いに楽しみです。最後になりますが、我々担当が笑いに包まれている中、代表は場外で他の団体の幹部との議論で会場に出たり入ったりです。ですが、最後の栄養グループフォトではいつもの笑顔でホッとしました。本当にお疲れ様です。



2018年07月15日

米中貿易戦争と衰える民主主義国、SDGs と連帯税などグローバルな富の再分配政策

トランプ米政権の一方的な仕掛けにより米中貿易戦争が勃発し、グローバル資本主義は大きな岐路にさしかかっています。この岐路につき、東京新聞の7月12日付社説「米中貿易戦争日本は役割を見極めよ」は短文ながらよく表現していると思いますので、紹介します。また、この社説の一方のキーワードが「衰える民主主義国」ですが、その意味について捉え直してみたいと思います。



SDGs 第10目標ロゴ

●衰えの見え始めた民主主義と台頭する一党独裁

まず社説は「米中の対立は何を示し、何が起きているのか」と問うています。そもそも「1989年のベルリン崩壊から冷戦が終結し、一党独裁、計画経済に対する民主主義、市場経済の勝利」となり、『歴史の終わり』とまで言われたのではなかったか。しかし、30年後の今日の貿易戦争の現実には、「衰えの見え始めた民主主義のリーダー米国と、台頭する新興勢力で一党独裁の中国との安全保障もからむ先端技術の争い、経済覇権争いの様相を強めている」、つまり民主主義国は衰え、一方で(敗北したはずの)一党独裁国がチャレンジャーとして立ち現れている、と言うのです。

なぜ民主主義国は衰えてしまったのか。「民主主義国ではグローバル化と金融資本主義の膨張が2008年のリーマン・ショックとなり、米国はもちろん、欧州にも広がった深刻な経済格差と分断は収まる気配がない」、と述べています。そうです、この「深刻な経済格差と分断」という民主主義国の経済・政治状況が排外主義を煽るポピュリズムの台頭をもたらし、米国ではトランプ大統領を誕生させたのです。その政権が、今や民主主義国の戦後遺産のひとつである自由貿易体制(WTO)ルールを勝手に破ろうとしているのです。

社説では、日本の役割として、短期的には多国間貿易の枠組みを堅持することであり、「長期的には富の再分配で、より平等で堅実な社会のあり方を世界に示すことも大きな意味を持つはずだ」と結論付けています。

【東京新聞・社説】米中貿易戦争 日本は役割を見極めよ(18年7月12日)

●深刻な経済格差と分断 分かっているが…、グローバルな富の再分配へ！

このところ、世界の政治的トップエリートたちの集まりであるG7ならびにG20サミットにおいて、経済的格差・不平等が拡大し、そのことが社会的統合を阻害し、むしろ経済成長を妨げている、というような論調が見られるようになってきています。2015年12月のG20アンタルヤ・サミットあたりからです。

また同年9月には国連でSDGs(持続可能な開発目標)が採択され、その宣言文ともいえる『我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ』でも、格差＝不平等問題は、貧困問題に次いでのアジェンダとなっています(SDGsでは第10目標となっているが)。

つまり、政治的トップエリートたちも「深刻な経済格差と分断」についてはその重大性は分かっているのです(トランプ大統領以外は?)。しかし、こうした社会的矛盾や危機的状况に対して、抜本的に改革しようという意欲と政策が見られないまま今日まで来てしまったのです。

この抜本的改革こそ、グローバルな富と所得の再分配を目標とする国際連帯税などグローバル・タックスなのです。それはどうしてなのか、どう実現していくかーについては、今月 26 日の国際連帯税シンポジウムで大いに議論されると思います。

<満席に近づいてきました、早めに申込みください>

●「SDGs のための国際貢献と国際連帯税を考えるシンポジウム」

◎日時:7月26日(木)午後1時30分~4時30分

◎会場:衆議院第一議員会館国際会議室

◎参加費:無料(必ず参加申込登録をお願いします)

[ニュース]イスラエル軍が大規模空爆、少年2人死亡 ガザ地区

日本リザルツは国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)のキャンペーン事務局をしています。

今日は、またまた心配なニュースが入ってきました。

◎イスラエル軍が大規模空爆、少年2人死亡 ガザ地区 (朝日新聞より)

イスラエル軍は14日、パレスチナ自治区ガザ地区で大規模な空爆を行った。ガザ地区の保健省によると、パレスチナ人の15歳と16歳の少年2人が死亡、10人以上が負傷した。イスラエル軍などによると、同軍はガザ地区を実効支配するイスラム組織ハマスの関連施設約40カ所を空爆した。一方、ガザ地区からはイスラエルに向けて迫撃砲弾やロケット弾などの砲弾約100発が発射された。一部は対空防衛システムで迎撃されたが、イスラエル南部スデロトで3人が負傷したとの情報がある。イスラエルのネタニヤフ首相は14日夜の声明で、2014年夏の大規模戦闘以来、「最大の打撃」を与えたとし、「必要に応じて攻撃をさらに強化する」と述べた。ハマスは14日夜、エジプトなどの仲介でイスラエル側と「停戦で合意した」と発表した。その後もガザ地区からイスラエル側に砲弾が発射されており、軍事的な緊張が続いている。

今年初め、米国政府が UNRWA への拠出凍結を表明して以降、財政的にも、政治的にも不安定な情勢が続いているパレスチナ難民。中東情勢の安定と平和のために、是非、日本のリーダーシップを期待したいです。

2階建ての理由を深めて

現在、日本リザルツのN連事業の1つの活動で、カンゲミヘルズセンターで新しい結核検査所を作っています。こちらの建物は、当センターの施設の中で唯一の2階建てです。

「どうして2階建てなの？」と思われる方もいらっしゃるかもしれません。私達は、こちらの建設活動にあたり、結核検査環境の向上や患者のプライバシーの保護を目的に掲げました。そのため、1階には患者の診断や喀痰採取と採血などが行える部屋、2階には顕微鏡とランプ法による結核検査や作業室への入室時の着替えなどが行える部屋を作っています。



個人的に、こちらの結核検査所のベランダから見えるカンゲミの風景が好きです。ここから、カンゲミ地区の人々の生活や自然との共存の形などを想像します。

日本リザルツは、8月1日にこちらの結核検査所の譲渡식을予定しています。当活動の成功により、カンゲミ地区の結核予防活動が促進されるように邁進します。



2018年07月16日

2018 RESULTS International Conference (7月14日)

リザルツ総会は、14日から17日まで開催されています。14日は、朝早くから、リザルツ関係者が、受付、オープニング会場、ワークショップなどの会場準備で大忙しです。受付には、総会プログラムや会場前ロビーの特別展示のパンフレットなどが入った赤のリザルツバッグ、鮮やかな赤のリザルツTシャツが山積みとなって、参加者を待ち受けていました。

総会の皮切りとなるオープニングが開催される会場は、この階で一番大きな「Independence Ballroom」です。13時の開始を前に準備が着々と進んでいました(写真)。また、オープニング前の時間帯の8時30分頃から早くも「REAL Change Fellowship」、「World Bank 101 and Beyond」、「Making the Most of the Conference: Orientation for First Timers」といった個別セッションが行われていました。そして、12時過ぎには、13時から始まるオープニングセッションに参加する米国や世界各地からリザルツ会員等が次々と集まってきて、1年ぶりの再会の挨拶などがあちこちで見られ、総会開会への気運が高まっていました。

13時からいよいよオープニングで、リザルツ会員による開催宣言、そしてリザルツを代表してジョアン・カーターさんによる基調講演が行われました。世界の結核の動向などの説明、米国議会議員などへのアドボカシー活動、達成された成果などが詳細に説明されました。ボールルームを埋め尽くす500人もの参加者からリザルツのアドボカシー成果などに対して惜しみない拍手を送っていました。米国全州のリザルツ会員、我々海外リザルツや関係者の出席者紹介では、立ち上がって手を振ったりして、NGO アドボカシーの本場である米国での総会に出席しているという実感が沸く瞬間でした。

ジョアンの基調講演に続き、ハイライトであるセッションとして、「Leaders for Equity: Women Making the Public, Private and Civil Society Sectors Work for All of Us」では、カナダ・リザルツの Chris Dendys さんによる進行で、1時間半にわたり、マラウイの前大統領 Joyce Banda 氏含む4人の女性パネラーにより、自らのジェンダー問題の実体験、課題の解決に向けた対応等について熱のこもったパネルセッションとなりました。パネラーの迫力のある発言に対してその都度頷く参加者も多く、質疑でも真剣な質問が多かったです。公的機関、民間、市民社会の各セクターで働く女性が、公平性の主導者として進むべきだ、という気持ちに参加者全員がなったことが伝わってくる素晴らしい討論会でした。



【WEBRONZA】『なぜいまグローバル・タックスなのか？』

現在ヘルシンキ大学客員教授を務めている上村雄彦横浜市大教授の最新論者が、WEBRONZAに掲載されましたので、紹介します。

【WEBRONZA】『なぜいまグローバル・タックスなのか？』

■深刻化する地球規模課題に対処できない主権国家体制の限界

地球規模課題はますます深刻化している。いまだ8億人以上が飢餓、貧困、栄養失調で苦しむ中、たった42人の富裕層が下位36億人と同等の富を所有している格差・貧困の問題。このままでは制御が効かなくなり、地球上の生命の生存を危くする気候変動の問題。終わりが見えない紛争やテロの問題。その他にも、感染症、サイバーアタック、水資源の汚染や不足など、いますぐ徹底的・全面的な対策を打たなければ、今後も未来が続くという保証はない。

...

深刻化する地球規模課題。その解決に要する巨額の資金の不足、そしてこのような状況に、効果的に対処できていない主権国家体制の限界。どうすれば、これらの難題を突破し、持続可能な地球社会を創造することができるのか。その鍵は、グローバル・タックスにある。



■第1の柱—世界の税務当局による課税に関する口座や金融情報の共有

■第2の柱—国境を超えた革新的な課税の実施 …以下、省略

表： グローバル・タックスの課税対象と種類

| 課税対象 | 税 |
|---------|-------------------------------|
| 金融 | 金融取引税、グローバル通貨取引税、タックス・ヘイブン利用税 |
| 国際交通 | 航空券連帯税、航空燃料税、国際バンカー油課税 |
| 多国籍企業 | 多国籍企業税 |
| 情報通信 | グローバル電子商取引連帯税 |
| 軍需産業 | 武器取引税、武器売上税 |
| エネルギー産業 | 地球炭素税、天然資源税、プルトニウム生産税 |
| 富裕層 | グローバル累進資産課税 |
| その他 | 「CDM 税」 |

(出典： グローバル連帯税推進協議会 2015： 20)

<満席に近づいてきました、早めに申込みください>

●「SDGs のための国際貢献と国際連帯税を考えるシンポジウム」

◎日時：7月26日(木)午後1時30分～4時30分

◎会場：衆議院第一議員会館国際会議室

◎参加費：無料(必ず参加申込登録をお願いします)

2018年07月17日

2018 RESULTS International Conference (7月15日)

総会2日目の報告です。盛りだくさんのテーマの中から心に残るものに絞って紹介します。

2日目は、午前中は、「草の根取締役会合」、「草の根運動を達人に学ぶ」、「議員とどう話すか」、「世界における選挙年のアドボカシー」、「貧困を終結させる運動を起こすための ACTION ネットワークづくり」、米国内の貧困問題に焦点を当てた「米国住宅政策と人種間における富の不公平の関係」といったワークショップが行われました。

午後からは、個別テーマを受けて、同じ時間帯の分割全体会合が2つ行われました。一つは、分割全体会合(米国)「数字に潜む貧困、権力及び人々：貧困の専門家による講和及び政策への勧告」という会合です。

もう一つは、分割全体会合(世界)「結核を終結させるため、もれている数百万人に手を差し伸べる」です。こちらはジョアンの進行で、世界各地で活躍される3人の専門家によるパネルディスカッションでした。パネリストの一人は、JICAの戸田上級審議役でした。

分割全体会合のあと、ワークショップとして、「UHC：保健へのアクセスを拡大し貧困を根絶する」が行われました。こちらにも、パネリストとして戸田氏が登壇されました。戸田氏は、東日本大震災で被災した子どもたちの心のケアを例に挙げ、ゆっくりとした呼吸(breathing slow)をすることで心の傷(stigma)が回復していることなどを紹介していました。戸田氏の心のこもったお話に多くの参加者が頷かれているのが印象的でした。筆者も思わず頷いた一人です。UHCという大きな目標の達成には資金や充実した制度に加えて、医療等の専門家との連携で、優れた知見や経験を現場で活かすことが重要であることを学びました。ご多忙の中、リザルツ総会に駆けつけられ、米国始め、海外参加者に貴重なお話をいただいた戸田上級審議役に心より感謝する次第です。



2018 RESULTS International Conference (7月16日)

総会3日目の報告です。今日も盛りだくさんですが、注目するテーマについて紹介します。

午前中は、全体会合「貧困を選挙の争点に」、次は、分割全体会合(米国)「ベーシック・アシスタンス・プログラムに対する脅威及び機会を作る政策のためのモメンタムづくり」と分割全体会合(世界)「人的資本への投資と2030年への軌跡:キム世界銀行総裁との対話」です。

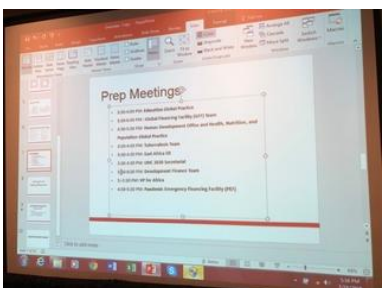
分割全体会合(世界)では、残念ながらキム総裁は出席できずビデオによる挨拶となりました。総裁に代わって、人間開発担当のディクソン副総裁とジョアンとの討論が行われました。引き続き、ワークショップ5テーマが別室で行われました。全体会合関連はすべて出席し、ワークショップは、「超貧困の解決が必須:なぜこの課題が全ての戦略にとって重要なのか」に出席しました。

キム総裁の挨拶は初めてお聞きしましたが、市民社会の代表格であるリザルツ会員に対して大変心のかもったお言葉で語りかけられたことに皆感動していました。次は是非とも直接お話を聞きたいと思いました。ジョアンと副総裁の討論も聞きごたえがあるので、参加者が真剣に聞き入っていました。

超貧困(Ultra-poverty)に関するワークショップは立ち見参加です。ロータリー財団の研究者による、格安のソーラーランタン(8ドル程度)が、極貧家庭の子供たちに勇気を与え、勉強できるようになったという話に賛同しました。極貧雇用の新たなマイクロクレジットの実践にも、皆が聞き入っていました。

午後は非公式会合です。明日のアドボカシー・デーでは、リザルツの専門家は世銀で、UHC、GFF、アフリカ開発、人的開発と人口・栄養、結核対策等多岐にわたるグローバル課題について意見交換と要請活動を行います。

す。GFFの受益者であるアフリカグループは、資金拠出問題もありかなり気合が入っていました。因みに、リザルツ事務局の担当官や海外メンバーとも親しくなったことも筆者にとっては大きな成果です。明日は9時、皆で世界銀行へ向かいます。



オバマ前大統領がケニアを訪問！

日本リザルツはケニアで結核アドボカシープロジェクトを実施しています。なんと、そのケニアをオバマ前大統領が訪問しているとのこと。以下がニュースになります。

オバマ氏がケニア訪問、親族と面会 青少年施設の開所式にも出席

【AFP＝時事】

バラク・オバマ(Barack Obama)米前大統領は15日、父の出身国であるケニアを2015年以来3年ぶりに訪問し、翌16日、親族と面会した。オバマ氏は今回の訪問中に、青少年施設の開所式にも出席する予定。

オバマ氏は15日にウフル・ケニヤッタ(Uhuru Kenyatta)大統領と最大野党指導者のライラ・オディンガ(Raila Odinga)氏を表敬訪問した。AFP記者によれば、オバマ氏は16日、同国西部へ空路移動し、厳重警備下でコゲロ(Kogelo)村に住む義理の祖母のサラ・オバマ(Sarah Obama)さんを訪ねた。オバマ氏は多くの親族と面会した後、異母姉アウマ・オバマ(Auma Obama)さんが創設した、スワヒリ語で「強い声」を意味する「サウティクー・センター(Sauti Kuu Centre)」の開所式に臨む。アウマさんが先週報道陣に説明したところによると、地元の若者らは最新鋭の設備を整えた同センターで、書籍やインターネットの利用やスポーツ活動への参加ができる他、労働倫理、道徳教育、環境保護、金融知識の講義も受けられるという。施設にはさらに、ドイツの開発協力省が出資した国際標準サイズのサッカー場や、バスケットボールで青少年育成を目指す財団「ジャイアンツ・オブ・アフリカ(Giants of Africa)」が資金提供したコート、さらにバレーボールのコートや図書館、IT研究所なども併設される。



【翻訳編集】AFPBB News

思いやりのあるオバマ氏の活動は、まさに SDGs を体現していますね。
ケニアで UHC と SDGs を推進すべく、日本リザルツもまい進したいと思います。

2018 年 07 月 18 日

ネルソン・マンデラ生誕 100 年

本日 7 月 18 日は反アパルトヘイト政策の活動家であり、南アフリカの大統領になったネルソン・マンデラ氏生誕 100 年にあたります。国連はこの日を「ネルソン・マンデラ国際デー」に制定し、他人に尽くすことで自分たちが住む社会を変え平和で持続可能なかつ公平な世界にすることが大事だと訴えています。しかしながら、オバマ前米国大統領はヨハネスブルグで演説を行い、今日「恐怖と怒りの政治」が強まっていると指摘、欧米で保護主義、移民排斥運動、極右政党によるナショナリズムが台頭し、マンデラ大統領以降進められてきた進歩が失われつつあると警告しました。

マンデラ氏はかつてこう述べています。「世界をそこで暮らす全ての人々にとってより良い場所にできるかどうかは、あなた次第だ。」

飢餓と貧困の根絶を目指して活動を続けるリザルツの一職員として真摯に受け止めなければならない言葉です。

若い力

今月 26 日の「SDGs のための国際貢献と国際連帯税を考えるシンポジウム」に向けて準備を進めています。多数の申込みをいただいている中で、大学生・大学院生や高校生の申込み、それも一人や二人ではなく何名もいただいていることに嬉しい驚きを覚えています。

このような若い方々が SDGs や国際連帯税といったテーマに関心を持ち、これからの日本や世界を担っていつてくれたらとても心強いと感じています。

2018 RESULTS International Conference (7 月 17 日)

総会最終日の報告です。

今日は、最終日を飾るアドボカシー・デーです。米国会員の多くがチームを作り、下院議員やスタッフへのアドボカシーに挑みます。準備は昨日から行われています。

午後 4 時過ぎに世銀から帰ると、ホテルロビーの隣にいた女性たちが、「〇〇議員との面会は良かった」というようなことを誇らしげに又楽しそうに今日の成果を話しています。充実した総会を過ごせたことが伝わってきます。ネイティブのスカットした英語が心地よいです。そういう筆者も、議会訪問は締め、海外リザルツ組に入って世銀アドボカシーから帰ったばかりでした。アフリカ組と親しくなり、早朝は、世銀の市民社会担当二人から世銀の市民社会対策の概要について詳しく説明を受けた後、質疑と要請をしました。アフリカでは非政府組織の力が強く、ボランティア集団という気がしません。非政府の専門家集団として、政府と一体となって政策を進めていると実感しました。GFF 資金を活用した保健関連プロジェクトの申請等、実務的な話になりました。

午前中の会合が早めに終わったため、別のセッションに参加しないザンビアのプリンセスさんとケニアのジャックさんと3人で、2階のカフェテリアで情報交換や母国の話も交えながら待機しました。そのうちに他のセッションに参加した事務局員や海外リザルツの仲間が集まってきます。この待機場所は正解だったようです。事務局員のナタリーさん曰く、「このセッションにモトイは名前が入っているから出席 OK、でもこっちはないから無理して押しかけないほうがいいよ。大至急、WhatsApp で責任者のスキさんに連絡して」と慣れない筆者を後押ししてくれました。

3時から、UHF2030 に向けての要請と意見交換会のため、急遽少数の参加者と事前の打ち合わせをしました。リーダーはセネガルの〇〇さんお願いしますと、英国リザルツのスタッフから指示。時間になると事務局長のハナさんが参加し会場に向かいます。暫くしてガーナ出身という世銀 UHC スタッフとインド出身と思われる女性スタッフが見え、セッションが始まりました。「各自の自己紹介と要請内容をお聞きしましょうか」と、世銀スタッフ。自分の番になり、昨年東京で行われた UHC について簡単に触れ、「UHC では公平性がキーポイント」だというセネガルの友人の言葉に触れながら、資金拠出と同時に所得階層に偏らない知見と情報の共有ができるような施策を世銀としても推進してほしいと要請したところ、担当官から「重要な意見だ」との返答がありました。実は、この話は15日の UHC ワークショップでの JICA の戸田上級審議役のスピーチの中で指摘があったもので、筆者も大いに賛同した概念です。戸田上級審議役、ありがとうございました。お陰様で、意見を述べることができました。

会議中、空が真っ暗になるほどの土砂降りですが、終了後、世銀を出ると嘘のように雨は止んでいました。代表からの至急の呼び出しにハラハラしながら、タクシーを飛ばしてハイアットに到着。代表も別件の用が終わったとのことでホッと一息つきました。

長いようでもあり、あっという間に過ぎ去ったリザルツ国際会議の総会、何とか過ごせたようです。多くの友人ができたことも成果だと思います。皆様、有難うございました！



2018年07月19日

スナノミ靴寄託式-2

7月9日に行われましたケニアへ送る1,660足の靴の寄託式で、12足についてケニアでどの方に靴が渡ったかの追跡を依頼され、本日その靴を佐々木さやか参議院議員の秘書の古屋様が届けてくださいました。近々ケニアへ渡航する者がそれらの靴を持参いたしますので、ご報告できるものと思います。

さて、皆様から靴を送っていただく際にお手紙を頂戴することがあります。靴の寄贈者の25%くらいの方が靴と一緒に送って下さいます。それらのお手紙を”靴の寄贈者の方々からのお手紙集”としてタイプアップしたものを作成し、古屋様にお渡しいたしました。靴は毎日のように届いていますので今後も追記してまいります。



スナノミ靴寄託式-3

7月9日に行われました公明党神奈川県本部のスクスク子育てプロジェクトチームさんからのスナノミ症予防のための靴の寄託式についての公明新聞の記事を2つご紹介します。



公明新聞 7月10日

公明新聞 7月17日

2018年07月22日

GGG+フォーラムケニア版まであと10日！

Habari gani (お元気ですか:スワヒリ語)? 7月31日(火)のGGG+フォーラムケニア版まで、残すところ10日を切りました。デニス・アウォリ元駐日大使、現ケニア・トヨタ CEO や、ストップ結核パートナーシップケニアの事

務局長のエヴァリンさんの全面協力のもと、現在、急ピッチで準備を進めています。また、開催にあたっては外務省、在ケニア日本国大使館、JICA ケニア事務所からもお力添えをいただいております。本当にありがとうございます。

こちらが最新のチラシです！



ゲストの方も日本はもちろん、ジュネーブ、ニューヨーク、そしてアンマンなどから遠路はるばる、フォーラムにお越しください。関連な議論ができる場になるよう、タッグを組むアブタさんはじめ、ケニアチームが一丸となって準備に取り組みたいと思います。尚、この GGG+フォーラムケニア版を皮切りに、GGG+フォーラム東京を12月3日(月)におなじみのルポール麹町で開催。2019年の TICAD 7、2020年の東京オリンピックと栄養サミットで、より効果的な施策を提示できるようにつなげていきたい考えです。さて、準備にあたっては、色々頭を使うことが多いのですが、毎度、自分の足りない点が露呈され、反省する日々です。霞が関の魔法使いどーらにはまだ遠く及びませんが、今回の経験を糧に、少しでも戦略的思考能力(考える力)が身に付けられるよう、小鳥も日々知恵を捻りたいと思います。

新結核検査所完成に向けて

現在、カンゲミヘルスセンターの新結核検査所は建設の最終段階に入っており、近日中に完成いたします。当センターで働かれている方々に完成間近の知らせを伝えたと、**「もう出来るの!？」**と、驚きと喜びが混じったようなご返答をされました。



こちらの建設に長く携わっている方々も感慨深いものがあるのでは、と想像してしまいます。

- 天気が思わしくなく、建設作業がはかどらない時期がありました。
- 建設に必要な材料の到着が遅れた時期もありました。
- ミルクティーとマンダジ(パン)をエネルギーに頑張っておられる時期がありました。
- 女性も男性も一緒になって重労働に挑んでおられる時期もありました。



最後のひと山、怪我無く一気に乗り切って頂きたいです。



2018年07月23日

ケニアの住民保健ボランティア会議

7月17日にナイロビ市カンゲミ地区で活動している住民保健ボランティア(CHV)を集めた月例会議が開かれました。(写真は会議前に皆が一堂に集える事に感謝して神様を讃える歌を歌っているところです)
公立カンゲミ診療所所属の住民保健アシスタント(CHA)から出された6月の活動レポートの内容を確認し、活動実績を振り返って良かったことや困った事などを話し合いました。



カンゲミ地区は4つのユニットに分かれていて、それぞれ45人のCHVがリーダーの下で活動しています。総勢180人のうち、この日は患者さんの支援やケガや病気などで参加出来なかった人を除いた約160人のCHVが一堂に集まりました。子どもを連れた夫婦や赤ちゃんを背中におんぶした若いお母さんなど会場はカンゲミ地区の住民であふれかえりました！



住民ボランティアの所轄である保健省から前述のカンゲミ診療所のCHAと結核コーディネーター、ウエストランズ郡の住民活動担当が参加されてボランティア達の意見に耳を傾けておられました。

冬真っ最中のケニアは、まだまだ寒いです。

この日も気温13度と冷え込んだにもかかわらずたくさんの住民ボランティアが参加して地域のために頑張ると言っているのを見て心温まる思いでした。頑張れ！住民ボランティア…



【最終案内】7.26 連帯税シンポ：外務省（調整中）、ピック仏駐日大使、白須リザルツ代表などが参加

グローバル連帯税フォーラムと国際連帯税創設を求める議員連盟の「共催」、日本リザルツ、外務省ほかの「協力」による『SDGs のための国際貢献と国際連帯税を考えるシンポジウム』が今週 26 日に開催されますが、そろそろ満席となりそうですので、最終案内とさせていただきます。申込みを忘れていた方はどうぞ申込みください。

主なスピーカーですが、河野太郎外務大臣の出席につき「調整」していただいているところです。また、連帯税の本場であるフランスからはローラン・ピック大使が参加してくださいます。国際機関からマルディニ・ユニセフ 公的パートナーシップ局長が参加し、UNITAID（ユニットエイド：主に各国の航空券連帯税を原資とし途上国の感染症の治療薬等を提供）、ビル&メリンダ・ゲイツ財団の参加も決まりました。

さらに、航空券連帯税を実施しオーナーシップを発揮しつつも、UNITAID からも援助を受けているカメルーン、マダガスカル両大使館へも参加を要請しています。

国内からは、国際連帯税議員連盟の諸先輩、NGO、企業、労働組合、有識者・専門家が参加し、コメントをいただきます（詳しくは、グローバル連帯税フォーラムの Web サイトを参照ください）。

このように、本シンポジウムは世界と日本の政府、国会議員、民間団体など国際連帯税推進グループが一堂に会して議論を行います。最後に「国際連帯税推進のための宣言」を採択し、とくに日本政府・外務省に対し自国での導入を図りつつ、来る G20 大阪サミットで日本政府が SDGs と国際連帯税推進のイニシアティブを取っていただくように求めています。

●学生・高校生の参加も多く、国際連帯税の abc から語っていただきます

基調講演は、金子文夫・横浜市立大学名誉教授に『国際連帯税の意義と未来』と題して、また津田久美子・北海道大学大学院生からは欧州金融取引税などの最新情報について、それぞれ語っていただきます。学生や高校生の参加申込みも多いので、abc 的内容から語っていただきます。

以上から、新しい公的資金調達の源泉となる国際連帯税実現のため、猛暑の中ではございますが、7.26 国際連帯税シンポジウムに参加ください。

◆◇「SDGs のための国際貢献と国際連帯税を考えるシンポジウム」

◎日時：7 月 26 日（木）午後 1 時 30 分～4 時 30 分

◎会場：衆議院第一議員会館国際会議室

◎参加費：無料（必ず参加申込登録をお願いします）

西日本豪雨災害（岡山県倉敷市真備町の医療現場からの緊急報告）

西日本豪雨災害の甚大な被害、中でも人の命に関わる医療実態現場調査のため、日本リザルツ白須代表の先遣隊として、岡山県倉敷市真備町に来ています。真備町の 11 か所の医院・医療施設（中核となる大病院や個人医院）のうち、山上にある精神科病院一か所を除き、先の豪雨災害により一階部分が水につき、機材（カルテも含む）が全て泥まみれ、使用不可能になり、診療が不可能になっています。

このため、現在、ほぼ唯一の診療である AMDA さんによる移動外来診療車での診療が、やはり災害を受けて休診中の「まび病院」の入り口で、吉備医師会を中心とする医師団や NGO（AMDA）等による懸命の努力が続

いています。ただ、この診療車も今月一杯とのこと。その後の仮設の診療施設が求められています。町内では2,900人の避難住民がおられるとのことですが、地元の小学校の体育館と教室で500名に及ぶ避難住民が不安な日々を過ごしておられます。今のところ、仮設住宅のめどもないようで、いつまでこの状態が続くのか極めて不安な状況です。特に今年は猛暑。人の命に係わる大変な状況です。

現場をご案内いただいた吉備医師会高杉医師から下記メッセージを頂戴しています。地域医療は、「かかりつけ医」として、医師と患者の間の「顔の見える医療」を大切にして、高齢者や幼児を持つお母さんなど弱者層に対して安全・安心を提供することで住民の心の支えにもなっています。一刻も早く崩壊した地域医療を復活させなければいけません。時間がありません。AMDAの皆さんが必死で支えておられます。我々もNGOとして微力ながらお手伝いをしなければいけません。

「真備地域医療復興プロジェクトチーム」

実施母体：吉備医師会、まび記念病院、真備地区開業医

協力団体：岡山県医師会他

【活動方針】

平成の大合併で真備町は倉敷市に合併したが、以前から総社市との結びつきの強い地域で、現在は倉敷市ではあるが、ある種自治区のような印象のある地区であるため、倉敷市民からの注目度もあまり高くない地域である(8,715世帯、人口22,970人)。真備地区は高梁川の支流小田川の氾濫により町の中心部が水没し、町全体が機能不全、ゴースタウンのような状況になっている。そして、真備町の11医療機関のうち、まび病院を除く10医療機関が壊滅的な状態になり、診療再開のめどが立っていない。

吉備医師会は総社市と真備町の医師で形成されていて、われわれの仲間の医師が被災している状況であり、真備地区の地域住民のため、町の再生のためにも医療再建に取り組みたいと考えている。町の再生には医療施設は不可欠であり、しかも、これまで培ってきた顔の見える患者-かかりつけ医の関係・絆を絶やしてはならないと考えている。

そのために町の基幹病院であるまび記念病院を中心に、真備地区の高齢で廃業の危機にある開業医も再建できるような仕組みを考えていく必要があると考えている。

主要活動

1. まび記念病院の外来機能の早期再建

まび記念病院敷地内に仮設診療所建設(移動診療車から移行)

2. まび町内の開業医の早期診療再開と再建

仮設診療所への外来枠確保と出務をしつつ自院を再建

3. まび記念病院と周辺の開業医の連携

仮設診療所や周辺の開業医への外部からの応援医師の要請

開業医の継承へ発展する可能性あり。

具体的活動

- ・まび記念病院敷地内仮設診療所運営
- ・診療機材購入
- ・応援医師の要請
- ・その他



2018年07月27日

西日本豪雨災害(岡山県倉敷市真備町の医療現場からの緊急報告 7月24日現在)

24日は、総社市役所別棟にあるAMDA臨時事務所での「岡山県倉敷市真備地区医療復興緊急支援事業(仮称)」の案文と積算書の作成です。概要のみ紹介します。

「岡山県倉敷市真備地区は7月6日から7日にかけての未曾有の集中豪雨により、高梁川の支流小田川が氾濫し、同地区の中心部が水没、地区全体が機能不全、ゴーストタウンのような状況になった。食料品販売、外食含め営業店は軒並み営業停止となっており、路上にはゴミが山積みとなっている。

医療関係では、真備町の11の医療機関のうち、山上の精神科病医院を除く10の医療機関が壊滅的な状態となり、医療が完全に停止した。水・電気などのインフラの整備もまだであり、病院による診療再開のめどが全く立っていない。

こうした中で、隣の総社市及び倉敷市真備地区の吉備医師会の先生方、県内及び県外の医師団や大学医学部の緊急支援隊と地域のNGOやボランティア等の懸命な支援が行われている。7月18日からは、AMDAのイニシアティブで、被害を受けた「まび記念病院」の入り口スペースを活用した移動診療車により、地域住民のための緊急的な診療が試験的に始まり、21日から本格的な診療が開始されたところである。24日現在、一日当たりの診療者数は60人まで増加し、緊急診療体制のシステムは出来上がった。

一方で、移動診療車は7月29日を以て撤退する上、災害前の同地区の一日当たりの開業医への患者数は860人とされていることから、今後、移動診療車への診療者数は急増することが予想される。

については、移動診療車により構築された緊急医療体制を維持・拡大し、増加する患者に対する緊急医療を継続するため、仮設の緊急医療施設を構築し、災害前の「かかりつけ医」の関係と絆、即ち「顔の見える」地域医療体制を再構築することが求められている。

事業期間としては、行政機関による本格支援が軌道に乗るまでの概ね3か月程度を見込み、本事業による一日当たりの診療者の達成目標を180人程度とする。以て、当地区のUHC及びSDGsの達成に資する。」

概略は以上ですが、上記の目標達成には、必要な、ヒト、モノ、カネが前提で、効率的に事業を遂行することが必要です。同時に、社会的弱者層である高齢者や子供たちが安心して生活することを事業目標の優先度のトップに置くことが重要です。このことは、誰よりも、吉備医師会の先生方が希望されていることでもあります。我々NGOも、地域の顔の見える医療の再生を図ることのお手伝いできればと思います。皆様のご理解とご協力を切にお願い申し上げます。



国際連帯税シンポジウム 雑感

昨日開かれた国際連帯税シンポジウムはリザルツの田中理事の献身的なご尽力と世界連邦の谷本氏、塩浜氏、リザルツの梅木の入念な準備のおかげで大成功理に終了しました。

当日はリザルツ・ボランティアの門井さん、藤崎さん、小平、そして小平夫人もお手伝いに参加して頂きました。

又、当日は逢沢一郎衆議院議員も駆けつけて頂き、リザルツになじみ深い方々にもご参加頂きました。

農林者年金基金理事 榎本様

味の素ファンデーション 栗脇様

日本二輪自動車推進協会 五十嵐様

多目的船事業 池永様 等

シンポジウム終了後の懇親会は田中理事の司会で和やかに進められ、互いの親睦を深められたようでした。



西日本豪雨災害(岡山県倉敷市真備町の医療現場からの緊急報告 7月23日現在)

23日は東京本部から白須代表が真備町入りし、現場確認と関係者面会を行いました。総社駅到着後直ちに診察不能の医療施設や避難所を視察し、14日以降懸命に診察に当たられている「まび記念病院」前の移動診療車両で行われている緊急診療体制の現状、これから一気に増える患者対応に備えた仮設診療所の構築が必須であることを確認しました。また、「まび記念病院」の村松院長から院内の被害状況のご説明を受け、現状では医療が不可能であること、かかりつけ医による「顔の見える医療」の継続が地域医療を復興するキーポイントであることを確認しました。

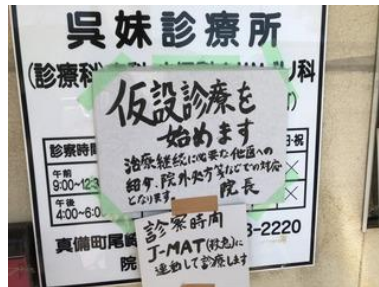


また、岡田小学校での緊急避難場所の実態を視察し、こども・高齢者の心のケアが緊要であることを確認しました。一連の現場調査を終え、診療のためご同行できなかった高杉先生の子供クリニックを訪れ、診察時間の合間に、現状と対策についてご説明を受けました。その間、代表は、東京の要人の方々に、現場の声の発信を続けております。これがリザルツアドボカシーなのかと感銘しました。一連の調査を終え、26日からの国際連帯税シンポジウム、31日のケニアのGGG+フォーラム準備のため、慌ただしく岡山駅から帰京です。酷暑の中、本当にお疲れさまでした。

昨日の第一報では、お伝え出来なかった現場写真を添付します。百聞は一見に如かずです。小生は、本日の代表による協議結果を最大限事業に反映する作業を継続です。行政による本格的な支援にいたるまでの、高齢者、子どもたち等一人も取り残さない地域医療復興事業緊急支援対策事業を可及的速やかにスタートす

るため高杉先生他現場の皆さんと協議を継続しています。

UHC、SDGs が各所で唱えられていますが、足元の日本でその危機が到来しています。メディア報道では出てこない情報、我々NGO の小さな声を聴いてください。JPF 様、関係者のご理解ご協力をお願い申し上げます。



「SDGs のための国際貢献と国際連帯税を考えるシンポジウム」開催

昨日、「SDGs のための国際貢献と国際連帯税を考えるシンポジウム」が開催されました。暑い日が続く中多数のご参加をいただき、盛況のうちに閉幕を迎えることができました。

なお、このことは NHK のニュースでも報じられていました。

SDGs のための国際貢献と国際連帯税を考えるシンポジウム
 Symposium on International Contributions for the SDGs and International Solidarity Tax
 共催：グローバル連携フォーラム、国際連帯税を定める議員連盟
 Co-organizers: Forum for Global Solidarity Tax, Parliamentarian Group for International Solidarity Tax
 協力：日経リサーチ、日本国際交流センター、外務省
 Cooperation: NIKKEI Research, Japan Center for International Exchange, Ministry of Foreign Affairs



私たちとしては、シンポジウムで採択された宣言文で述べられている次の3点を重点的に実践して行きます。

1、まず我が国において国際連帯税の導入を図るべく、平成31年度税制改正大綱において国際連帯税の導入に向けた具体的道筋が明記されるよう、河野外務大臣及び外務省のイニシアティブを全面的に支援するとともに、国内世論を盛り上げていく活動に邁進します。

2、国際連帯税の導入に向けた具体的な検討を行うにあたっては、政府内に省庁横断的な会議体を設置するとともに、その下に専門家・有識者及びNGOや市民団体の代表者等からなる「有識者検討委員会(仮称)」を設置することを要請します。私たちは、この検討委員会に積極的に協力し、参加・参画を図るとともに、パブリックコメント等が実施される場合には全面的に協力します。

3、来年6月に大阪で開催されるG20首脳会議にあたっては、日本政府がSDGs推進等のために、国際連帯税を含む新しい開発資金調達方法の創設に向けた議論を参加各国政府に呼びかけやすくするために、私たちは独自のネットワークを最大限に活用して、他のG20各国への働きかけを行うとともに、署名活動やサイドイベントの企画など各種キャンペーンを実施して機運を盛り上げていきます。

2018年07月28日

新結核検査所完成模様(カンゲミヘルスセンター)



国際連帯税シンポジウム(場外編)

国際連帯税シンポジウムが無事終わりました。小生は、今回、参加者の入館案内係でした。玄関口でシンポジウムですか？と確認して入館証配布係につなぐ役です。仕事は2時過ぎまで続け、遅れてきた人も案内出来てよかったと思われれます。大塚製薬の井上さんも、自分が残っていたおかげで入室できてよかったです。その代わりに、1時30分から2時30分頃までの講演は聞きそびれました。寺島先生の講演は完全に聞き漏らし。そのあとの稲場さんから聞くことができました。稲場さんの「国際連帯税「貧困・格差のない持続可能な社会」をグローバルに実現する最大のツール」では、「SDGsの一丁目一番地: 貧困・格差のない持続可能な社会」(その通り！と頷く)としたうえで、科学技術イノベーションを背景に、グローバル・プラットフォーム企業(以前の多国籍企業のことかな?)は、国境に関係なく収益を上げ得る構造と税制・社会保障等は国単位の矛盾(難解だなあ)、よって、国際連帯税は、「グローバルな収益構造にグローバルな再配分を対置する最大

のツール(なるほど！収益構造が国境を越えているので、再配分も国境を越えてやるべきで、国際連帯税が効果があるという理解か？でも、現実には、主権国家の権限を越えた税収ってあり得るのかな？主権国家が解消して世界政府になればいいけどな、配分ってどうやってやるのかな、貧困者に与えよなら分かるな、国連は限界があるのかな)。稲場さんの1枚紙で深みにはまり、金子文夫先生の「国際連帯税の意義と未来」を読み始めました。70年代のトービン税(為替相場の投機的な急変動の抑制目的を論じる純粋経済学的理論らしい)から始まり、歴史、意義、航空券連帯税、本丸の金融取引税問題まで総合的に論じられたテキストです。結論は、「税金は文明社会への対価。国際連帯税はグローバル社会への対価」となります(なるほど！)。簡単に理解できる話ではありません。その中で、気になる用語に突き当たりました。「7. 国際連帯税の可能性(1)グローバル・ガバナンスの必要。主権国家体制と並行してグローバル・ガバナンスを構築する時代」、「7. 国際連帯税の可能性(2)グローバル・ガバナンスの萌芽。SDGs への取り組み」とあります。そういえば、今日のタイトルは「SDGs のための国際貢献と国際連帯税を考えるシンポジウム」でした。SDGs を通して国境を越えた社会を構築する。SDGs 実行には相当な額の資金が必要だ、だから、国家だけでは資金は供給できない、だからグローバルに、主権国家の論理や枠組みを取っ払って、グローバル、要するにみんなで資金供給に協力しよう、ということだったのかな、が単純ですが、一つの納得すべき結論です。

ここで、自分が世界栄養報告を読んでいるとき、SDGs では、食料生産・畜産などは温室効果ガスの中でも二酸化炭素の発生源になっていて地球環境に負の影響がある、だから栄養という視点を生産構造に織り込むべきだという主張がありました。SDGs は、農・畜産業界にとっては制約条件を与えるものであることがここでも主張されていました。短期的な利得は我慢して、長期の視野で産業構造を作り替えよという仕組みがSDGs であり、そのための追加コストは、国際連帯税収をみんなで我慢して負担していくことで、持続的な開発・発展が達成できるということかな、ということならなるほど！！ 栄養のある食品製造のサプライチェーンが農業構造まで変えるといわれたときは、そこまで栄養に期待するのかなと思いますが、そういう考えもあるのでしょうか。これもなるほど！！でも産業構造転換のための追加コストはお願いします！

要するに、SDGs で得られるものは国家主権を超えた地球規模の公共財であって、当然タダでは達成できず、短期的には莫大なコストがかかるものだ。政策、制度、産業構造等の根本的な改革を求めるものであるから、そのコスト負担には、国境を越えた税収を負担すべきだ、我慢すべきは我慢するのが狭い地球に住む者の義務だ、と個人的に納得したのです。

最後に、小生の古き良き仲間たちとのスナックです。友人たちは今ではOBですが、この間まで、エネルギー資源開発等の大きなビジネスをアジアや中東で手掛けてきた大手商社の幹部です。大手損保OBグループにも来ていただきました。はたまた最近のインバウンド増加需要で沸く民宿業界の経営者です。でも、誰も金儲けのことなど一言も言いません。一律に、「今日の会議は素晴らしかった」、「来てよかった」、「またやって欲しい」との感想です。皆、理屈のあることには理解は早いのです。持つべきものは友です。



2018年07月29日

GGG+ フォーラムケニアに向けて～カンゲミ地区の声を届けるために～

ケニアで初めてGGG+フォーラムが開かれることになり、カンゲミ地区で実施している結核予防事業では、2月から6月まで実施した患者への個別の対面聞き取り調査の結果から得られたデータを元に報告書を作成し、小冊子にして配布することになりました。

写真はGGG+で配布される小冊子『カンゲミ地区結核患者の声』の表紙です。聞き取り調査をした合計100名の患者のデータはGGG+フォーラムのケニア人調整員アブタが表のベースを作りコツコツと入力してくれ、

データの数が増え50を超えてからはGGG+フォーラムの準備会議を始めて実際に患者に聞き取りを実施した栄養士のポーリーンと住民ボランティア担当のヒルダが入力を手伝ってくれました。この表は冊子の中にデータとして折り込む予定です。

5ヶ月に及ぶ長い聞き取り調査の間には、結核の症状がひどくて苦しんでいた患者が治療を続けたおかげで完治する嬉しいニュースが入って来ることもありましたが、治療は順調なのにご主人が亡くなり未亡人になってしまい子どもを抱えて途方に暮れる患者の話など、単純に結核患者という言葉でひとまとめには出来ないという事をつくづく感じさせられる作業でした。そこで、日々患者の声を聞き取っていたスタッフに、特に印象に残っている患者について問題点を掘り下げながら、〇〇さんの話というようにストーリーを書いてもらい、カンゲミ地区の患者が抱える個人的な問題や、複数の患者の間で共通の問題について何度も議論を交わして、カンゲミ地区の患者に共通した課題について一つ一つまとめて出来たのがこの小冊子です。

時間の制限のある中で本当によく頑張ってくれたことに感謝しながら、開催まで後数日となったGGG+フォーラムまで最後までしっかり準備をしていきたいと思っています。



世界トイレ大革命大躍進

2017年7月4日。アメリカの独立記念日に合わせて発足した、世界トイレ大革命から早1年が経ちました。



日本リザルツもミセス・トイレ白須のイニシアティブのもと、関係各省庁、国際機関、企業、市民団体の皆さまと、世界トイレ大革命の大成功に向けて、取り組みを進めてきました。

ミセス・トイレこと白須は LIXIL のサイトの実地調査もしました。



また、GGG+フォーラム 2017 でトイレを大々的にテーマとして取り扱ったりするなど、世界トイレ大革命チームは一丸となって協議を進めて参りました。



そして、なんと、LIXILさんとUNICEFさんがトイレ大革命の促進に向けて、パートナーシップを結ぶことになりました！ 記者会見には和泉内閣総理大臣補佐官もお越しくくださったそうです。報道各社も大きく取り上げています。ビックニュースを知り、ミセス・トイレ白須、トイレ・ガール小鳥も大変うれしい気持ちでいっぱいです。これを機にますます、安心・安全なトイレが世界に普及することを願っています。

ESSUMBA SCHOOL TO BE LAUNCHED ON MONDAY, 30TH JULY, 2018

Essumba village, one of the poorest villages in western Kenya will have something to smile about next week.

The village's primary school, which was jigger infested, with dilapidated infrastructure received a generous face lift, courtesy of RESULTS Japan and the Embassy of Japan in Kenya.

The school has been renovated, and new classrooms as well have been erected, something that has made the school just as good a brand new one.

The formerly mud floor classes have been cemented, something that will go a long way in eliminating jiggers, which have for years ravaged the limbs of the young children of that village, who come to seek an education in the facility.

Further, with the support of the Japanese government and a local NGO, RESULTS Japan will conduct a jigger eradication campaign event, where jigger infested people will be treated to kill the parasites living in them.

More than 60 severely affected patients will be treated, with hundreds of others to receive treatment, and spraying of their homes to avoid a recurrence of the parasites.

This is part of the larger efforts to improve the general health of the village, whose population is estimated at 5,000.

GGG+ 2018 DRAWS TO A HOMESTRETCH

The preparations for high level discussions about UHC, which are being organized by the RESULTS Japan are coming to a homestretch, as the actual day draws closer.

The Tuesday meeting will draw high level officials from the Japanese government, as well as from the Kenyan government. The technical discussions will be instrumental in policy making especially in the implementation process for the country's UHC agenda.

The forum will be held at the Nairobi's Jacaranda Hotel for the better part of Tuesday, 31st July, 2018.

The event comes against a backdrop of various activities by the Tokyo and Nairobi based NGO, which aim to inspire community led responses against TB.

Some of the key milestones include heightened active case finding, introduction of new, and rapid diagnostic machine (TB LAMP), a new, state of the art lab facility among a litany of other improvements.

We look forward to a wonderful event with quality and fruitful discussions.